はらずりはいくる

平成31年1月11日 (公社)東京都リサイクル事業協会 広報委員会

111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

ф

年頭所感

公益社団法人東京都リサイクル事業協会 理事長 栗 原 正 雄

新年明けましておめでとうございます。

長年の懸案である古紙持ち去り行為は、関係各者のご努力により、持ち去りをさせない環境づくりが徐々に整備されてきております。当方の調べによれば、関東1都6県の区市部を人口ベースにみると、実に約9割の自治体で持ち去り禁止条例を施行していることが判明。しかし、常習的買入問屋と持ち去り業者には改善の兆しがなく、常習者に対して効き目がないといわざる

を得ません。現在、超党派の国会議員による資源リサイクル推進議員連盟で主要課題の一つとしてご検討いただくまでになりましたが、持ち去り根絶へ早急にギアが上がることを期待しています。

再生資源市場では、中国との関わりで、その環境の変化に大きく振り回された1年でありました。例えば古紙は、中国国内のごみ減量施策の積極展開や米中貿易摩擦により米国古紙に25%の関税措置がとられました。この結果、秋以降一時的に、新聞・段ボール古紙の輸出価格が第二次オイルショック以来の高値を記録。このため日本国内で不足感が生じ、経産省から国内優先出荷の要請を受け、業界対応をしております。他方、廃プラスチックは輸入禁止措置により、行き場を失くした膨大なプラスチックが国内のヤードに滞貨。現在リサイクルの現場は混迷を極めています。



Ф

また、マイクロプラスチック等の海洋汚染が深刻であることも相次いで報告されはじめました。多方面でプラスチックから紙・ガラス素材等へ転換する機運も芽生えてきました。

私どもは、資源の質を低下させることのないよう、都民・行政等との連携関係を一層強化し、循環型社会の基盤を担うにふさわしい業界づくりに努めていく所存です。東京都環境局では昨年8月に「チームもったいない」を結成。当会もその一員として、とりわけリサイクルの肝ともいえる「排出段階で分別の必要性」を訴える活動をしていきたいと思います。



平成 30 年を振り返り、再生資源リサイクル分野における 10 大ニュースを挙げてみました。詳細は次頁で紹介しています。

- 7 【全般】多くの再生資源で中国の国内 外施策に翻弄(ほんろう)される
- 2 【全般】世界的なプラスチックごみ対策に注目集まる
- 3 【古紙】第二次オイルショック以来の高値を記録

- 4 【鉄・非鉄スクラップ】 雑品スクラップがヤードに大量に滞貨
- 5 【びんカレット】プラスチック容器から ガラス容器への転換機運芽吹く
- 6 【リターナブルびん】 一升びんの回収率-下げ傾向止まらず
- 7 【古繊維(古布)】回収古繊維(古布)の品質に、改善の兆し
- 8 【全般】東京都環境局「チームもったいない」発足。
- ・ 【古紙持ち去り】資源リサイクル推進議 員連盟で検討開始
- 10【鉄スクラップ】 雷炉メーカーの再編加速

▼ 平成 30 年リサイクル業界 10 大ニュース

→2~3頁 → 5頁

■ 古紙持ち去り根絶対策情報 ■ 再生資源の市況について

→ 5頁 → 7百

リサイクル適性 (4) この印刷物は、印刷用の紙へ

P70



再生資源リサイクル 30年 10 大ニュース



7 【全般】多くの再生資源で中国の国内外施策に翻弄(ほんろう)される

中国では 2020 年までに国内再生資源の回収量を 2015 年比 1 億 ½ 増やす等、ごみ減量・環境施策を展開。古紙、鉄・非鉄スクラップ、廃プラスチック等中国と関わりのある再生資源は、輸出量の規制、価格の急騰、荷不足感、未選別品の輸出禁止、国内滞貨等品目別にさまざな影響を受けました(詳細は各品目ご参照下さい)。



② 【全般】世界的なプラスチックごみ 対策に注目集まる

プラスチックごみの海洋汚染問題や中国 等の廃プラスチックの輸入禁止措置等によ り、全世界的にプラスチックとのつきあい 方を見直す機運が高まりました。環境省・ 東京都でも、プラスチックの資源循環戦略 について検討が始まりました。各方面で環 境負荷の少ない紙やガラス素材等への転換 も期待されるところです。



② 【古紙】第二次オイルショック以来 の高値を記録

新聞・段ボール古紙の中国への輸出価格が一時3万円/トン以上の高値をつけました。中国国内の古紙調達難と米中貿易摩擦による25%関税障壁によって日本古紙へのニーズの高まりが背景です。また中国国内では一時5万円/トンの高値をつけました。

新聞・段ボール古紙の輸出増により、国内製紙メーカーで不足感が生じました。この事態を憂慮した経産省は、古紙問屋業界に対して、国内へ優先出荷の依頼をしました。



② 【鉄・非鉄スクラップ】雑品スクラップがヤードに大量に滞貨

鉄・非鉄・プラスチック等複合素材からなる雑品スクラップが、廃掃法の改正、中国の輸入禁止措置を受けてヤードに大量滞貨しました。いわゆる複合素材からなる雑品スクラップが中国に輸出できなくなったため、国内でシュレッダー(破砕)処理することで、品質を高めて、エンドユーザーに供給しています。

【リサイクルフォーラム開催予告】

プラスチック対策&集団回収団体等表彰

平成31年2月12日(火) 開場:16:00~ 開始:16:30~

■場 所:ホテルメトロポリタンエドモント(千代田区飯田橋) 1F クリスタルホール

■内容 ◆フォーラム<基調講演>16:30~17:30

「東京都におけるプラスチックの持続可能な利用施策動向&『チームもったいない』 について」

<集団回収等団体表彰式>17:40~18:10

受賞者等の方から団体活動の現状・課題・展望等をお話しいただく予定です。

◆懇親会 18:20~

■参加者:都民・行政関係者関係諸機関・(公社)東リ協会関係者等

■定 員:150名(先着順) 会場管理のために必ず事前にお申込み下さい。申込みがない場合はご参加いただけません。

都民・行政関係者の方-無料 (懇親会は別途費用がかかります)

■お申込期限:2月1日(金)17:00まで

期限前でも定員超過の場合はお受けできませんので、お早目にお申込み下さい。

※お申込み方法は右記事務局までお問合せ下さい。 (公社) 東リ協会事務局 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040

じんカレット]プラスチック容器からガラス容器への転換機運芽吹く

これまで、軽い・割れない等の利便性からプラスチック素材に切り替えられてきたガラスびんですが、今般のプラスチックが引き起こす深刻な環境汚染へ対応しようと、PET素材容器への切り替えをやめたり、新たにガラス容器を採用するメーカーが増えてきました。ガラス素材の無害・環境安定性・再生の容易性等を再評価いただいたものと考えられます。

フ 【古繊維(古布)】回収古繊維(古 布)の品質に、改善の兆し

ボロバブルが引き起こした品質低下の後遺症が長らく続いてきましたが、古繊維専業団体上げての回収基準づくりや、住民の皆さん・自治体・資源回収業者等の協力により、品質向上が図られてきました。他方主要輸出国のマレーシアで新税制(Sales&Service Tax)が施行され、輸入貨物の受け取りに10%課税され、新たな不安要素が出てまいりました。

② 【古紙持ち去り】資源リサイクル 推進議員連盟で検討開始

全国の自治体で持ち去り禁止条例の施行が拡がっていますが、常習者の持ち去り行為が改善されない実情に対して、超党派の国会議員からなる資源リサイクル推進議員連盟が重要課題の一つとして検討を開始しました。

一升びんの利用量はこの 20 年間で約 1/4 以下に減少し、回収率も約 73%とこの 10 年間で約 15%低下。一升びんをリターナブルするには P 箱(流通函)が必要ですが、市中で目的外利用され散逸しています。また蔵元での段ボールの出荷、販売形態の変化等々により、一升びんのリユース機構は衰退の一途です。貴重なリユース機構を維持するための社会的対応が求められています。

② 【全般】東京都環境局「チームもったいない」発足。

一人ひとりの行動が環境全体へ影響を及ぼすとの見地から、個人の行動を変え、ひいては東京を持続可能な都市として発展させようと、東京都環境局では「チームもったいない」を昨年8月に発足。当会もその一員として、分別の必要性を呼びかけていきます。

10 【鉄スクラッフ】 電炉メーカーの再編加速

建設需要が堅調なうちに、将来の需要縮小に備えようと、全国の電炉メーカーの合併・統合、事業提携等が図られました。



謹んで新春の お慶びを申し上げます



会員一同

〈広域団体〉

東京都資源回収事業協同組合 理事長 松本貞行

東京都製紙原料協同組合 理事長 坂田 智

東京壜容器協同組合 理事長 今井明彦

東京硝子原料問屋協同組合 代表理事 菅澤太二

関東製紙原料直納商工組合 理事長 大久保信隆

関東古繊維協会 会長 中野聰恭

〈地域団体〉

千代田区リサイクル事業協同組合 代表理事 高橋 健 中央資源リサイクル事業協同組合 理事長 今井明彦

港区リサイクル事業協同組合 理事長 永田博孝

新宿区リサイクル事業協同組合 理事長 小池茂男 東京包装容器リサイクル協同組合 代表理事 戸部 昇

文京区リサイクル事業協同組合 理事長 森山 享

墨田リサイクル事業協同組合 代表理事 藤本幸一 江東リサイクル協同組合 理事長 大木健司 目黒区古紙回収業者連絡協議会 会長 斎木達也

大田区リサイクル事業協同組合 代表理事 西 義雄 世田谷リサイクル協同組合 理事長 土井信男

渋谷区リサイクル事業協同組合 理事長 信太政光

中野区リサイクル協同組合 代表理事 北田武夫

同栄資源回収事業協同組合 代表理事 山田祐康

北区リサイクラー事業協同組合 代表理事 鰐渕雄二郎

板橋区資源リサイクル事業協同組合 理事長 皆川三彦

練馬区リサイクル事業協同組合 代表理事 市川哲也

日野市資源リサイクル事業協同組合

代表理事 駒沢伸豪

青梅資源リサイクル事業協同組合 代表理事 吉崎稔旺 八王子資源化事業協同組合 代表理事 池畑英樹

町田市資源協同組合 代表理事 阿部健一

東多摩再資源化事業協同組合 代表理事 吉浦高志

多摩市リサイクル協同組合 理事長 佐々木義春

古紙持ち去り根絶対策情報

■都内自治体の持ち去り禁止条例施行状況について

平成30年は、23区で1自治体が新たに条例を施行。2自治体が罰則強化しました。都内全体では41自治体(区市)の約8割が施行しています。(うち23区は19自治体の約8割、多摩地域は22自治体の約8割。町村部は除く)

都内区市の持ち去り防止取り組み一覧(平成30年9月更新)

(公社)東リ協会調べ(東京都環境局(H29111)等資料及び自治体HPを参考とした)

(公社)東リ協会		持ち					罰	則	
	自治体	去例の有無	収集 禁止	所有権 明示	集団 回収	氏名 公表	5万円 以下 過料	20万 円 以下 罰金	50万 円 以下 罰金
	23区部								
1	千代田区	_							
2	中央区								
3	港区								
4	新宿区	-							
5	文京区	•							
6	台東区	-							
7	墨田区								
8	江東区								
9	品川区	•							
10	目黒区								
11	大田区	•							
12	世田谷区								●常習
13	渋谷区	•	•						
14	中野区								
15	杉並区								
16	豊島区	•	•					•	
17	北区								
18	荒川区				•				
19	板橋区	•	•	•		•		•	●常習
20	練馬区								
21	足立区								
22	葛飾区	Ŏ	•					Ŏ	
23	江戸川区	-							
	小計	19	19	4	5	8	3	16	2
	市部								
1	八王子市	•	•					•	
2	立川市								
3	武蔵野市								
4	三鷹市								
5	青梅市								
6	府中市								
7	昭島市	_							
8	調布市								
9	町田市								
10	小金井市						 		
11	小平市								
12	日野市								-
13	東村山市						 	_	
14	国分寺市			-			 		
15	国立市			1			 		
16							-		-
	福生市	•	•			•	-	•	-
17	<u> </u>	•	•			•	 		-
18	東大和市	•					 	•	-
19				•			-		-
	東久留米市			1			-		-
21		•	•	1			ļ	•	
22	多摩市						ļ		
23	稲城市	_					ļ		
24	羽村市	_							
25	あきる野市								
26	西東京市	•							
20						4.0			
	小計 合計	22	22	3	2 7	16	0 3	16	0 2

※網部分は新たに施行、罰則強化した自治体 荒川区はH30.10.1より施行

■ GPS 追跡調査について

関東製紙原料直納商工組合(関東商組)では、 平成25年2月より関東地域の自治体と連携協力 し、GPS追跡調査を実施 しています。この間、47



治体が実施し、調査に用いられた端末機は472台でした。平成30年4月以降では、持ち去りにあった割合は約23%で、常習的買取事業者(2社)に入ったことが確認されました。同組合では現在5社の氏名公表を行っております。詳細は同組合のホームページをご覧下さい。

http://www.kantoushoso.com/information/mochisari.html [資料提供:関東商組]

■古紙持ち去り根絶宣言車識別(ステッカー)制度について

古紙持ち去り問題意見交換会が実施している、古紙持ち去りしないことを宣言した車両登録制度を実施しています。平成31年1月10日現在で、ステッカーを貼付した車両

が、関東圏一 円で1,361台 走り回ってい ます。



このステッカーを貼っていないで古紙を回収する車 両は持ち去りが疑われるというところまでもっていき たいところです。

●実施主体 古紙持ち去り問題意見交換会(8団体) 全国製紙原料商工組合連合会(全原連)/日本再生 資源事業協同組合連合会(日資連)

関東製紙原料直納商工組合(関東商組)/関東資源 回収組合連合会(関資連)

東京都製紙原料協同組合(東京協組)/東京都資源 回収事業協同組合(東資協)

神奈川県リサイクル産業団体連合会(神奈川R団連)/(公社)東京都リサイクル事業協会

詳細は(公社)東リ協会ホームページをご参照く ださい。

http://www.torikyokai.org

[資料提供:古紙持ち去り問題意見交換会]

関東1都6県の資源持ち去り禁止条例の施行状況について

当会では、これまで都内の持ち去り禁止条例について継続的に調査を行ってきましたが、昨年9 月に、東京都以外の6県(区市部まで)についてもウエブサイトからの調査を実施しました。

その結果、県により条例内容に傾向があること、人口ベースでみると全体の約85%が条例施行している等が判明しました。このことで持ち去り被害が関東一円に広がっていることがわかります。以下その概要を報告します。

■条例の施行状況

関東1都6県 (23区・市) では、世田谷の最高裁判決以降、被害の拡大とともに多くの自治体が持ち去り禁止条例を施行しています。

人口ベース (各自治体の住民数の計) では、全体で85%が条例施行。県別では埼玉県 (95%)、茨城県 (91%)、東京都 (88%) が9割近い。→都市部や人口密集エリアで持ち去り行為が横行していることがうかがえます。

		23 区・市 自治体数	禁止条例施行			
	都道府県名		自治体数	割合		
		日/日/中数	日心冲奴	自治体数	人口	
1	東京都	49	41	83.7%	87.9%	
2	千葉県	37	21	56.8%	83.3%	
3	埼玉県	40	36	90.0%	95.0%	
4	神奈川県	19	14	73.7%	76.3%	
5	茨城県	32	23	71.9%	90.9%	
6	栃木県	14	9	64.3%	74.9%	
7	群馬県	12	7	58.3%	82.1%	
合計・割合		203	151	74.4%	85.3%	

■条例内容別の施行状況

1.所有権の明示

排出された資源物の帰属が自治体にあるとするの は全体の約半数でした。

そのうち特に多いのが埼玉県と茨城県。

2.集団回収

行政回収だけでなく、集団回収からの持ち去り行 為も禁じる条文を設けている自治体は1割弱でした。 東京都と栃木県の自治体では2割前後と比較的多い。

3.罰則

(1) 氏名公表

氏名公表は約2割の自治体が規定しています。 特に東京都は6割近くと多い。他方、埼玉県・神 奈川県・群馬県ではありませんでした。

(2) 過料・罰金

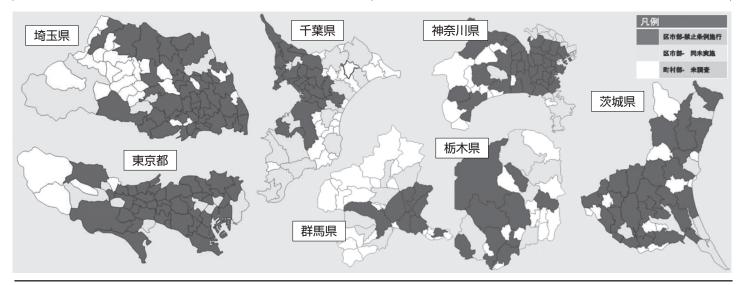
約半数の自治体が罰金20万円以下を規定しています。そのうち神奈川県と東京都が8割前後と高い。 常習者に限り罰金を50万円以下としているのが、 世田谷区と板橋区でした。

■その他 - 条例による取締りの限界

取り締まるための要員や態勢整備にかかる費用を理由に条例制定にまで至らない自治体もありました。区市部の禁止条例施行の拡充で持ち去り取締の包囲網がより強固になっていると考えられる。しかし、氏名を定期公表するS区では、禁止命令書の交付を46回受けている者が1名、2から30数回受けている者が4名もいる。また、A区では、口頭注意の件数が8年間で2万件を超えている報告もあり、常習者に対しては条例による取り締まりは限界があるといわざるを得ません。

詳細データは当会ホームページ

http://www.torikyokai.org/に掲載しております。



再生資源の市況尼ラいて

平成31年1月7日現在

	市 況 (価格単位はトンベース表記です)
鉄スクラップ	鉄スクラップ市況は、旺盛な国内建設需要に連動した電気炉メーカーの増産の影響で3万円台を維持し続けました。しかしながら、中国による雑品スクラップ輸入禁止への動きは、鉄スクラップの品質問題、ダスト処分場不足問題等に波及し、今後の鋼材需要減を見越しての電気炉メーカー再編に拍車をかけました。 本年の鉄スクラップ市況は、昨年末よりの急落により新年を迎えました。急落は海外相場の下落によるもので昨年の海外安・国内独歩高現象は、今年も続くと思われ3万円のプラス・マイナス5千円の相場観を維持できると思われます。
飲料缶	飲料缶は、スチール缶・アルミ缶共に平成29年度は高いリサイクル率を維持しております。スチール缶リサイクル率は93.4%・アルミ缶リサイクル率は92.5%。 スチール缶リサイクル率が高いのは、選別の徹底・加工精度の向上、自治体の分別収集システムの整備によりスチール缶スクラップが、高品質で製鋼原料としての評価が高いことがあげられます。 アルミ缶国内需要量は、前年比2%減の219億缶。ビール系飲料の需要が減ったため、スチール缶やPETボトルや紙容器等、消費者の多様なニーズによって容器選択の幅が広がったことによるものと思われます。
古紙	古紙は、昨年も中国の古紙政策に振り廻された年でした。中国は昨年7月より不純物が混じった古紙を輸入禁止とし、加えて輸入量を許可制にする規制をかけました。 2015年の中国国内回収量(全再生資源)を2億46百万tとして、2020年までに再生資源の回収量を1億t増加するというごみ減量計画を発表。古紙の輸入量を減らしたため中国国内の古紙の不足感が強まり、秋には中国国内の段ボール古紙価格は5万円まで急騰しました。さらに米中の貿易摩擦により米国からの輸入古紙に25%の関税をかけたため、米国からの古紙の輸出が急減。不足分は日本から調達する他なくなりました。 一昨年の日本の新聞古紙の輸出量は年間で26万tでしたが、10月時点で47万tのため、年間では約2倍の50万トン以上に達するものと思われます。中国向け輸出価格は第二次オイルショック以来の高値となり、段ボール・新聞古紙共に3万円以上となりました。 両古紙の輸出増により日本国内で不足感が出始めました。11月には経産省の要請もあり、業界では国内優先出荷の対応をとりました。12月には、中国への通関時期が年内一杯となったこともあり、国内外価格は全品値下げ局面に入りました。
PET ボトル	昨年のPETボトルリサイクル推進協議会の報告書によると、平成29年度のリサイクル率は84.8%となり、世界最高水準のリサイクル率を維持しております。又、第3次PETボトルのリデユース目標(2020年までに25%達成)もPETボトルの軽量化が進み23.9%となりました。中国の廃PETボトル輸入禁止措置の影響は、多くの自治体で既に国内循環を確立されていたため、一部の自治体と輸出依存企業だけのダメージで済みました。又、昨年の指定法人落札価格は上期 ▲31.0円/kg、下期 ▲36.3円/kgとなり、前年より7円/kg下がりました。
廃プラスチック	廃プラスチックは昨年、世界的な海洋汚染問題として多くのマスコミで取り上げられました。という、海に漂うプラスチックが波や紫外線に晒され劣化。超微細なマイクロプラスチックとして、新たな脅威であると指摘されるようになりました。 環境省は昨年11月に、プラスチック資源循環戦略案を策定、パブコメを募集。基本原則では、プラスチックの仕様を合理化し、無駄に使用される資源を徹底的に減らし、容器包装・製品の原料を再生材や再生可能資源(紙・バイオプラスチック等)に切替え、徹底的に分別回収・循環利用を図ることが盛り込まれました。 日本のプラスチック処理の大半を担うのが高炉ですが、昨年11月14日に新日鐵住金がプラスチックリサイクルの累計処理量が、300%に達成したと報道がありました。

(公社)東リ協会広報委員会

■ 港区の再生資源のリサイクルを支えて21年。

平成9年の設立以来、私たちは港区内のびん・缶やペットボトルの回収をはじめみなと資源化センタ 一の運営業務を港区より受託し、資源ごみの回収・加工・売却を経て日々めまぐるしく変わる商業地域の 変化や、大型マンションの急激な増加にも柔軟に対応し港区が目指す資源循環型社会の実現へ貢献し てまいりました。

また、学校における環境教育のお役に立てていただけるよう、毎年港区区内の幼稚園、小学校、中学校 に回収済みの古紙で製造しましたティッシュペーパーを配布しております。また区民の皆様、学校、事業所 の皆様からのご協力をいただきましてペットボトルのキャップを集め、その売上金をユニセフ駐日事務所 へ寄付しております。

私たちはこれからも資源循環型社会から一歩先を目指す組織であり続けたいと思っております。



港区小規模事業所リサイクルシステム推進協議会 港区リサイクル事業協同組合

事務局 〒108-0071 東京都港区白金台4-17-15 電話 03-3442-2141 FAX 03-3442-0351

「限りある資源を生かす」

これが私たち栗原紙材株式会社のモットーです。 当社は、古紙リサイクルのパイオニアとして、創業 以来約70年にわたり古紙のリサイクルビジネスに取 り組んできました。

そして、今後も循環型社会の構築を目指して、古 紙リサイクルの未来を築く先駆けとして日々邁進す ることをお約束します。

栗原紙材株式会社 代表取締役 栗原正雄

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里一丁目 27番9号 TEL: 03-3806-1751 (代表) FAX: 03-3806-7490

事業所一覧

- ●日暮里事業所/●板橋事業所/●中野事業所
- ●瑞穂事業所/●ジェイ・ケイリサイクル
- ●久喜事業所/●新利根事業所/●牛久事業所
- ●鎌ヶ谷事業所/●水府事業所/●美野里事業所
- ●高崎事業所/●新田事業所/●郡山事業所
- ●札幌事業所/●ひたちなか事業所

http://www.kuriharashizai.co.jp/



昨年、NHK の「苦海(くがい)浄土」(石牟礼道子著)を解説する番組を観ました。日 本の公害問題の原点ともいえる水俣病の患者とその家族等に寄り添い続け描いた小説です。 豊かな海とともにふつうに暮らしてきただけの方がビニール製造で発生するメチル水銀の 垂れ流しによって被害者となった。著者はその悲痛と苦悩の代弁者として、詩のつもりで 綴ったとのこと。近代化のとてつもなく罪深い影について考えさせられました。

水俣病の公式確認から 60 数年を経た現在、今度はマイクロプラスチック等による深刻な海洋汚染、生物濃縮 問題等が各方面で報告されはじめました。その安価さや利便性ゆえに全世界に爆発的に普及したプラスチック。 環境中への散逸による影響は未知数です。プラスチックといかにつきあうかを改めて問われるこの問題に、現代 に生きる我々は、苦海浄土に込められた情熱に真摯に向き合い、応えていかなくてはならいないと思っておりま す。

We♥りさいくる 第29号

発行日:平成31年1月11日 発行人: 栗原正雄 編集人: 永田博孝 発行所:(公社) 東京都リサイクル事業協会 111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701

TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040 http://www.torikyokai.org

印刷所:惠友印刷株式会社